



第 365 号 平成 20 年 12 月 1 日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町 601-1 こどもみらい館 2 階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 長 村 吉 朗

## エピペンの現時点での使用状況

会 長 長 村 吉 朗

エピペンが使用されだして 3 年を経過し、学校現場での使用の希望も保護者より寄せられる状況となっております。エピペンの本人・保護者以外による使用についてはいまだ法律的に明確とはなっておりませんが、緊急避難として第三者が注射を実施することは許容されるとの見解が出されております。今後学校医としてエピペンの使用につき指導や助言を求められることもあるかと思われますので、現時点で

の情報をお届けします。メーカーであるマイラン製薬に問い合わせましたが、各種情報は副作用等の情報管理委員会に帰属し、外部に出すことが出来ないとの回答を得ました。そこで現時点で公開されている情報として、今春横浜で開催されました第 20 回日本アレルギー学会におきまして下記の発表がありましたのでその要旨を転載いたします。

### エピペン注射液の使用例の検討

海老澤元宏 1)．西間三馨 2) (国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 1)．  
国立病院機構 福岡病院 2))

アナフィラキシーの補助治療薬のエピペンがハチ毒に起因するアナフィラキシーに対して承認されたのが 2003 年 8 月、食物及び薬物等に起因するアナフィラキシーに効能追加されたのが 2005 年 3 月で、発売から現在まで処方例、使用例に関して厚生労働省の指導のもと世界に例がないほど厳格にモニターされている。今回 2003 年 8 月から 2007 年 4 月末までに販売された 33808 本 (0.3mg ; 31147 本 0.15mg ; 2661 本) のうち実際に使用された 181 例 (使用率 0.53%) に関して検討を加えたので報告する。適応別の処方内容として 0.3mg のうち 54.3% がハチ毒、5.5% が食物、0.5% が薬物に対してであった。0.15mg の処方の 2.2% がハチ毒に対して、39% が食物、0.6% が薬物に対してであった。181 例のうち記載漏れなどによりデータの解析が可能であったのは 170 例であった。170 例の使用例のうち 154 例が 0.3mg、16 例が 0.15mg で、ハチ毒に対して 58.8%、食物に対して 29.4%、薬物に対して 1.8% 使用されていた。製剤別の使用状況を見てみると 0.3mg ではハチ毒が 64.9%、食物が 23.3% であったのに対して、0.15mg では食物が 87.6% と大多数を占めていた。ハチ毒による使用例では刺傷から 5 分以内が 61%、5～15 分が 18% であったのに対して、食物・薬物では 5 分以内が 17.9%、5～15 分が 20.5%、16～30 分が 12.8%、31～60 分が 17.9% となっていた。転帰は回復 67.6%、軽快 22.9% で、有効性の評価としては 80.9% において改善と判断されていた。安全性に関する報告では有害事象有りは 1 件の報告もなく、無しが 45.7%、不明が 54.3% であった。エピペンの使用に関しては患者・保護者において適切に行われ、有効性は改善例が大多数を占め、有害事象も現時点までではほとんど発生していないことが明らかになった。

このほかに0.15mgの使用例は上記の発表のごとく16例であり、京都におきましては子どもに対する使用報告はなく、又0.3mgの使用は3例であったそうです。現時点で重大な副作用は報告されていませんが、使用法を誤り針を指に刺してしまう間違いは発生しているとのことでした。エピペン処方に当たっ

ては講習を受ける必要がありますが、マイラン製薬に連絡すれば個々の医院に於いて説明を行い処方が可能になるとのことです。時間は15分程度の説明とDVDの視聴のみです。興味のお有りの先生方は連絡してみられては如何でしょうか。

## 第39回全国学校保健・学校医大会に参加して

会長 長村吉朗

11月8日に新潟県新潟市で開催されました第39回全国学校保健・学校医大会の概要を報告いたします。当日の分科会並びにシンポジウムにつきましては、また別に報告される予定です。

なお、これに先立つ11月6日に当地に於いて開催されました第58回全国学校保健研究大会において、京都市からは耳鼻科学校医の星谷徹先生（仁和小学校他）が文部科学大臣表彰を学校歯科医の服部素直先生（紫野高等学校）とともに受賞致しましたが、その様子をご報告致します。耳鼻科学校医として文部科学大臣表彰を受賞されるのは、おそらく星谷先生が全国初と思って喜んでおります。と申しますのも、大臣表彰の受賞の推薦基準には20年以上学校医をして、かつ顕著な功績があるものとなっていますが、全国的にも眼科・耳鼻科の医師が検診医でなく学校医として囑託されているところはきわめて少なく、京都市におきましても平成元年になって初めて学校医として委嘱されております。そのため今年が初めて推薦者を出せる年となったわけですが、ただ20年の間学校医をしているだけではだめで、40年間複数数学校の学校医をして初めて文句なしの受賞資格が与えられる、というきわめて狭い門なのです。6日午前12時に新潟県民芸文化会館「りゅーとぴあ」に受賞者が集合、懇切丁寧な説明の後、午後1時より開会式が始まりました。塩谷文部科学大臣代理の山中スポーツ・青少年局長と武藤新潟県教育委員会教育長の挨拶に始まり、神保新潟県知事代理、篠田新潟市長の祝辞の後、被表彰者188名（内、学校医54名、学校歯科医37名、学校薬剤師28名）の名前が順番に読み上げられ式典は2時まで行われました。その後2時から、京都大学大学院准教授 木原雅

子先生による「性教育から生きる教育へ、予防教育から希望教育へ」～WYSH教育の視点から～の特別講演がありました。翌7日は午前中に課題別研究協議会が開催され、例年通り10にも及ぶ課題別に別れ発表を聞きました。課題は「学校経営と組織活動」「保健学習」「保健指導」「心の健康」「性・エイズ教育」「保健管理」「歯・口の健康づくり」「学校環境衛生」「安全教育」「禁煙・飲酒・薬物乱用防止教育」と幅広いものですが、私はその中から今回の京都府医師会学校保健委員会の諮問事項である、性・エイズ教育をテーマとした第5分科会を聴講致しました。

翌日の8日の新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」で開催されました第39回全国学校保健・学校医大会には、私と奥村、平位両副会長、林専務理事、星谷、鈴木耳鼻科医会理事、府医からは藤田理事と上田先生の計8名が京都から参加致しました。

大会のテーマは「みつめよう子どもの健康と未来」、10時からの分科会報告では例年通り「からだ・こころ（1）」「からだ・こころ（2）」「耳鼻咽喉科」「眼科」の4分科会に分かれ協議の後、シンポジウム「よりよい子どもの健康環境をめざして」、さらに居多神社宮司 花ヶ前盛明氏による『直江兼嗣と「天地人」』の特別講演が行われました。分科会は多くの発表が実にうまく時間内にまとめられ、京都からの上田先生の発表にも多くの質問がありました。眼科の分科会では色覚異常の演題に対し、演者でもない名古屋からパンフレット持参のアピールがいつも通り見られました。シンポジウムは残念ながら内容に乏しく、新潟の学校医のアンケート調査の集計報告には、地方会レベルかという思いでした。

なお次回の学校医大会は11月14日に広島県広島市

で開催と決定されました。ただ、来年の研究大会は11月10、11日に設定され、間が空いた開催予定となっ

ているため、医師の参加がさらに減るのではないかと心配しております。

---

---

## 第39回全国学校保健・学校医大会 — シンポジウム —

福西小学校医 奥村正治

本年のテーマは「よりよい子どもの健康環境をめざして」という題で、4人のシンポジストより、発題がありました。

### 1. 「学校医と取り組む学校保健活動」

新潟市立亀田西小学校養護教諭 田中 和子さん

### 2. 「子どもの食生活状況と栄養教諭のかかわり」

新潟市立小須戸小学校栄養教諭 曾根有佳里さん

### 3. 「産婦人科から見た思春期の心と身体」

新潟県村上保健所長 佐々木綾子さん

### 4. 「新潟県における学校医活動の現状」

(アンケート調査より)

新潟県医師会理事・学校保健部長 石田 央さんの4題と、コメンテーターとして、日本医師会常任理事の内田健夫先生が加わり、話が進みました。

1つ1つの演題は、それぞれの話題にまとまりをみせて話は進みますが、4題の共通点にまとまりがなく、主題テーマの「健康環境をめざして」にはほど遠いまとめとなった。シンポジウムのむずかしさ

を感じた。コメンテーターの内田先生も、昨年と同様の様なコメントになり、日本医師会も含め、子ども達の取りまく種々の問題の早期解決には名案はなさそうである。

シンポジウムからははなれるが、分科会にて学校給食が、全食米飯になり、歯の問題や、栄養素、好き嫌い、食物残渣等々、パン給食より、よい結果が出ているという報告があった。アメリカより輸入されたパン給食を見直す時期に来ていると思われた。さすが米どころ新潟であった。

もう1つ蛇足になるが「早寝・早起き・朝ごはん」がさげばれ、今回もこの「早寝・早起き・朝ごはん」が随所に出てきた。以前からそう思っているのですが、3つもいらぬ。1つだけで良い。「早起き」これ1つで事足りると思っている。早起きすれば自動的に早寝も出来る様になり、朝食も可能である。

本年は、小生だけだろうか？ 女性の校医の先生方が大勢御出席であった様に思いました。

---

---

## 第39回全国学校保健・学校医大会に参加して

副会長 平位喜七郎

新潟市での、第39回全国学校保健・学校医大会の第2分科会からだ・こころ(2)の部に参加して来ましたので、その概要をご報告いたします。

演題は11発表され、5の演題が発達障害が中心であり、3つの演題は中・高校生にみられる性行動の報告で、最後の3つが食育に関するものでした。

心の問題も段々と発達障害に的がしぼられてきて、内児科医がどうかかわっていくかが、今後の大きな課題となっています。フロアからの発言で、名古屋大学を中心に、小児科医が心理学や精神医学を学んで、徐々に発達障害に対応できるドクターが増加していることが報告され、注目を集めました。児童精

神科医の存在は大学でもごく少数で、今の日本ではその増加を待つことは不可能です。京都でのワンポイント相談室の取り組みにもっと多くの人の参加が望まれます。

性行動の報告では、低学年から性教育をはじめの重要さが指摘され、性行動には妊娠・性感染症を伴うことを知らずに、TVやインターネットで表面的なことのみ学習し、性感染症、とくにHIVにさらされている危険な状況をどう阻止するかとの問題が提起されていました。

食育は生活習慣と学習効果の上で、今後注目すべきテーマです。

## 第1分科会「からだ・こころ(1)」

専務理事 林 鐘 声

第1分科会は12の演題がありました。

学校健診に関する最初の4題のうち3題は運動器検診を中心としたもの、1題は心臓検診と腎臓検診でした。京都から上田忠先生がH19年とH20年に行った大文字駅伝出場選手(700人/年)、即ち、限られた対象者に対して心臓検診は心臓専門医、運動器検診は整形外科医が行った検診結果を報告しました。運動器検診の結果としては、整形外科受診が必要と判定されたのは、H19年で36人(4.9%)、H20年で25人(3.6%)であり、今後とも運動器検診が、大文字駅伝出場選手に必要なことを示す結果であったと思います。島根県の運動器検診では、小学生<中学生<高校生と運動器疾患推定罹患率は高まり、3.2%、9.6%、22.9%と報告されていました。新潟県でも、ほぼ同様で、脊柱側彎を除くと、その多くはスポーツ障害に基因するものでした。整形外科医が学校健診に出向くことは実際的でないことから、内科系校医による取り組みが要請されており、島根県からは上肢、肩、脊柱、腰、下肢の異常を見つけ出すのに役立つ1分間体操をDVDで供覧していました。よく出来たものでしたが、その体操を生徒達がすんなりと行って1分間かかりますから、実際の健診の場では1人1分間で済むことにはなりません。スポーツ障害に基因する異常が多いことを考えると、春先の年1回の検診で取り組むより、頻度高く取り組むことが重要です。従って、この体操を体育の授業で取り入れて、体育教師がチェックしていくことの方が実効が上がるのではないのでしょうか。検討して頂きたいと思います。

次の4題は感染症に関するものでした。インフルエンザ流行時の学級(校)閉鎖の措置についての学校長へのアンケート結果が1題、次いで、DPT接種をしているために非典型的症状を呈することの多い学童・生徒の百日咳に対して、それを疑った時には登校停止の措置を必要とするとの報告でした。京都市でも百日咳が学校内で拡まった事例は稀ではなかったように思います。大阪府からは、集団流行のありうる病気については、疑った時に出席停止させることを盛り込んだ、園・学校医のための新しい登

園・登校基準についての報告がありました。但し、医学的観点からの意見という立場で、従来の許可証でなく意見書として提示しており、病児保育などの対応が十分に整備されていない現状で、医学的にはこれが正しいといい放して終るなら、いささか疑問なしとするわけにはいかないところです。秋田県の大館市では生徒に麻疹が発生した際に、感染感受性のある生徒(麻疹に未罹患で、ワクチン未接種)は、直ちに出席停止とし、ワクチン接種によって出席停止を解除、ワクチン接種には1/3を公費負担する対応で、麻疹流行の阻止に良好な結果を得たとする報告がありました。行政、教育現場、医師会の緊密な連携で可能となったものようです。Ⅱ期MRワクチン接種率が95%を越えている唯一の県が秋田県であることの理由の一端が窺える内容でした。

最後の4題は、地域でスポーツクラブを子どもに解放して、子どもの体力向上に一定の効果を認めたとする報告、地区医師会が主体となって開催してきた過疎地域での中学の合同学校保健委員会の活動報告、及び肥満に対する取り組みの報告でした。和歌山県日高医師会が小学4年生を対象に行った生活習慣病予防検診を受けたうちで、高校1、2年生まで追跡できた881人を、肥満グループと非肥満グループに分けて血圧や採血結果を比較検討し、正常値内であるものの、収縮期血圧、中性脂肪、総コレステロールが高く、HDLコレステロールが低い傾向が、特に男の肥満グループに認められたとする報告でした。肥満グループでALTに異常値がでていましたが、上記の正常値内での差をメタボリックシンドロームと結びつけて論じることに果して意味があるのでしょうか。最後に茨城県学校保健会が過去6年間、小学1年生から中学3年生までのべ150万人を対象として、各学年の肥満児の比率を発表していましたので紹介しておきます。小学1年生の男女で、各々6.8%、6.1%、小学校の学年が進むと比率が高まり6年生では15.4%、11.7%、中学1年生では15.0%、12.0%、中学3年生ではやや下がり11.9%、11.1%でした。大略、予期できる数字ですが、基礎知識として再確認しておいて下さい。

# 平成20年度 第39回全国学校保健・学校医大会

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木 由一

## 開催要項

メインテーマ 『みつめよう子どもの健康と未来』

日時 平成20年11月8日(土) 午前10時  
 会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター  
 (新潟市中央区万代島6-1 TEL: 025-246-8400)  
 主催 日本医師会  
 担当 新潟県医師会  
 参加者 日本医師会会員及び学校保健に関係のある  
 専門職の者

## 第3分科会 『耳鼻咽喉科』

座長：新潟大学大学院医歯学総合研究科  
 耳鼻咽喉科学分野教授 高橋 姿  
 日本耳鼻咽喉科学会新潟地方部会  
 学校保健委員会委員長 廣川 剛央

1. 就学時健診において異常を認めた同一児童の小  
 学校6年までのティンパノグラムの変動  
 徳島県医師会 中山 壽孝
2. 耳鼻咽喉科健診で見つかった軽度・中等度難聴  
 児について  
 神奈川県医師会 寺崎 雅子
3. 学校健診よりみた鼻副鼻腔炎症性疾患の疫学  
 山科県医師会 島田 和哉
4. 学校健診における言語検査の再認識  
 徳島県医師会 宇高二 良
5. 小中学校における音声言語異常検査の現状と問  
 題点(第2報)  
 北海道医師会 橋本 紘治
6. 特別支援学校における耳鼻咽喉科健診に関する  
 問題点  
 大阪府医師会 菊守 寛
7. 浜松市における政令指定都市移行に伴う耳鼻科  
 医会の取り組み  
 静岡県医師会 鳥居 智子
8. 横浜市における耳鼻咽喉科学校医活動の現状と  
 問題点 -小学校養護教諭に対するアンケート  
 調査結果から-  
 神奈川県医師会 朝比奈 紀彦
9. 旧新潟市における集団健診方式について  
 新潟県医師会 鳥居 俊
10. 学校保健活動に関するアンケート  
 耳鼻科学校医の職務に関する意識について  
 広島県医師会 貞岡 達也

## 日程

9:00	受付
10:00	分科会 第1分科会 『からだ・こころ(1)』 第2分科会 『からだ・こころ(2)』 第3分科会 『耳鼻咽喉科』 第4分科会 『眼科』
12:00	昼食 都道府県医師会連絡協議会
13:00	開会式・表彰式
14:00	シンポジウム テーマ『よりよい子どもの健康環境をめざして』 シンポジスト 『学校医と取り組む学校保健活動』 ～新潟市立東中野山小学校の取り組み～ 新潟市立亀田西小学校養護教諭 田中 和子 『子どもの食生活状況と栄養教諭のかかわり』 小須戸学校給食センター栄養教諭 曾根有佳里 『産婦人科から見た思春期の心と身体』 新潟県村上地域振興局健康福祉部医監 村上保健所長 佐々木綾子 『新潟県における学校医の現状』(アンケート調査より) 新潟県医師会理事 石田 央
15:40	特別講演 演題 『直江兼統と「天地人」』 講師 越後一の宮 居多神社宮司 花ヶ前盛明 次期担当都道府県医師会長挨拶
16:40	閉会
17:30	懇親会 アトラクション 『アルビレックス チアリーダーズ』
19:30	

11. 宮城県における耳鼻科校医の健診に関する現状  
および意識調査  
(特に、校医報酬、担当複数の格差について)  
宮城県医師会 稲村直樹

12. 耳鼻咽喉科学校医の役割  
千葉県医師会 浅野尚

---

---

## 西京区での食中毒事件

会長 長村吉朗

前々号に事故米事件の概要を掲載したときに述べましたが、学校に関する事件や事故の記録を残しておく事も重要と考え、今回も又学校を舞台に発生しました事件につき概要を掲載いたします。思い出してみますと、私が学校医会の常任理事になりました頃には、理事会で会長が各種の新聞より切り抜いた

学校関係の記事を皆に示し意見を述べたものでした。服部会長の頃より徐々にその習慣がなくなり、私が会長になってからは全くしておりませんでした。我が家の新聞は1紙のみで情報としては乏しいのですが、今後は学校に関する事件・事故に関し出来るだけ顛末を調べ掲載したいと考えております。

### 食中毒の発生について

平成20年10月18日(土)午後1時過ぎ、西京区の住人から西京保健所に次のとおり連絡があった。

10月12日に(日)に西京区の中学校で開催された「第53回松尾学区民体育祭」に参加した小学生が、40人ほど学校を欠席しているらしい。また、医療機関を受診をした1人からサルモネラが検出され、2人が入院しているらしい。

西京保健所が調査したところ、患者らは10月12日(日)に、京都市立松尾中学校で開催された「第53回松尾学区民体育祭」で、西京区内の飲食店「天乃屋」が製造した弁当を食べていることが判明した。

当該飲食店「天乃屋」は、3つの自治会から合計657食(392食、210食、55食)の弁当の注文を受けており、弁当を食べていることが判明した341人中77人が、10月13日(月)午前4時から17日(金)午後7時にかけて下痢、発熱、腹痛等の症状を訴え、19人が医療機関を受診していることが判明した。

また、医療機関で検査した患者3人の便から、食中毒の原因物質であるサルモネラが検出された。

西京保健所では、患者の発症状況が類似していること、患者に共通する食事が「天乃屋」が製造した弁当以外にないこと、患者3人の便からサルモネラを検出したこと、患者を診察した医師から食中毒の届出があったことから、当該施設が製造した弁当を原因とする食中毒であると断定し、本日から5日間の営業停止を命令した。

同保健所では、食中毒の予防に関する再教育を行うとともに、施役の洗浄、消毒の徹底を指導し、被害の拡大と再発の防止に努めている。

○提供された弁当のメニュー

出し巻、海老フライ、ホタテフライ、から湯げ、ウィンナー、メンチカツ、大学芋、きゅうり、煮物(しのだ、こんにゃく、麩、小芋、ごぼ天、がんも)、ゴーヤ、金時豆、牛肉コロッケ、パセリ、白飯、ゼリー、梅干し等

## 小学生陸上競技記録会に参加して

福西小学校医 奥村正治

10月13日（祝）体育の日に、第37回京都市小学生陸上競技記録会が、西京極陸上競技場と、となりの補助競技場を使って行なわれた。

東京オリンピック後、体育の日が誕生したが、この東京オリンピックも晴天になる確率を予想し、10月10日となった様であるが、いつの日からか記憶にないが、第2月曜日が体育の日となり、連休の2日目となる13日（祝）に行なわれた。お天気の方は、東京オリンピックと同様快晴にめぐまれ、最高のコンディション（少し寒い日ではあったが）で競技が行なわれた。

小学生6年間のしめくりとして毎年西京極で行なわれ、本年で37回目を迎えた。本年の種目は、男女共・100m走・50mハードル走・800m走・4×100mリレー走・走り幅跳・走り高跳の6種目である。リレーに関しては他の種目と兼ねても良い事になっている。

市内全域より、157校、男子1660人・女子1333人、計2993人の児童のエントリーで、朝10時より（競技開始）夕方5時（表彰式を含む）までの競技となった。

学校医会からは毎年2名の医師が、救護として参加している。今回は会長の長村先生と私の2名で医

務を担当した。ころんでの擦過傷が圧倒的に多く、9例、湿布使用の捻挫様疾患が2名、内科的疾患が2名、走行後の趾の痛み2名、オスグット病で痛みを為のアイシングが1名、骨折が2名であった。

問題点は2点出てきた。1点はオスグット病と判明している児童に4×100mリレー走の選手として走らすのはいかがか？ 母親の言うには「小学校6年生でもう運動はおしまい」と言っておられたがこの様な生活をさせても良いものか？ 考えさせられる。指導者はどうお考えか？ もう1点は骨折である。1例は肩甲骨上部の打撲（走行中にこの場所がころんで打撲するのであろうか？）による外力よりの鎖骨骨折、もう1例は走行中ころんでの前腕の手首側の若木骨折（2本とも）である。いずれも走行中ころんでの骨折である。危険回避の手のつき方に問題があったのではないかと思われる。幼少期の外での遊び、運動が少なくなっている今日、上手なころび方の指導というものが必要と考えさせられた。1年や2年で解消される問題ではないが、今回の3例は指導者である学校の先生方の御指導を十分に行なっていたきたい課題の様に思われた。

記録の方は残念ながら新記録は生まれなかった。

---

---

## 右京支部会報告

常任理事 井本雅美

9月13日（土）、「嵐山弁慶」にて右京支部会を開催致しました。

昨年度で1名の先生の勇退があり、今年度から新たに3名の先生が入会されました。

当日は新入会2名の先生を含め、19名の参加がありました。

支部活動、会計報告に続き、長村吉朗京都市学校医会々長より、教員免許更新制についてやエピペンの現時点における使用状況と問題点などについての

話があり、引き続き会員間で、エピペンの処方の方、養護教員の質と更新制、また健診時における着衣や場所設定の問題点などについて活発なディスカッションがありました。その後、会員でもあり小児科医会々長の竹内宏一先生から予防接種についての話をしていただき研鑽を深めました。

好天に恵まれ、嵐山の美しい景色を眺めながらの懇親会ともども、有意義な支部会であったことをご報告致します。

## 第7回 常任理事会

平成20年12月6日  
於 事務局

出席者 長村会長、奥村・平位副会長、林専務理事、  
竹内常任理事、佐野眼科学校医会副会長、  
星谷・鈴木各耳鼻咽喉科専門医会理事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 平成20年度社団法人京都府歯科医師会会員大会 11/1
2. 第60回教育功労者表彰式典 11/6 京都アスニー  
20年永年勤続表彰 眼科医 耳鼻科医 多数
3. 第58回全国学校保健研究大会 11/6  
今月号参照
4. 第39回全国学校保健・学校医大会 11/8  
今月号参照
5. 腎臓相談 11/11 2名
6. 京都市生涯学習市民フォーラム総会及び講演会 11/11
7. 京都府麻しん対策会議 11/14 III期、IV期  
MRワクチン接種状況(9月末)、今後の対策
8. 第55回日本学校保健学会 11/15  
名古屋市 養護教諭の位置づけ
9. 色覚相談 11/18 12/2 各2名
10. 第23回京都市小学校「大文字駅伝」大会第2回  
運営企画委員会 11/19
11. ワンポイント相談 11/27 学校教諭による、  
クラスの3人の生徒についての相談
12. 第44回京都市学校保健会研究発表会・表彰式 11/29
13. 京都市学校保健会表彰祝賀会・懇親会 11/29
14. 第57回近畿医師会連合学校医研究協議会総会 11/30  
烏丸京都ホテル 児童精神科医の十一氏の講演「これからの学校保健と児童精神医学」
15. 結核対策委員会 12/1
16. 心臓相談 12/3 小3 PVCの男子 E可
17. 精神衛生研究会 12/4 7名の参加
18. 幼児保健に関する検討会 12/5  
園医の組織化をすすめていく

### <協議事項>

1. 第23回京都市小学校「大文字駅伝大会」出務医  
について
2. 保健調査票について
3. MR 集団接種について  
京都市保健福祉局より説明
4. その他
  - ・京都市学校医会総会 H21.4.18 講師決定
  - ・感染症講演会 H21.3. 7 性感染症  
講師：岩室 紳也 氏

### <関連学会・各種協議>

1. 京都市小学生駅伝競走記録会 12/7
2. 「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」  
の防煙授業 12/10
3. 色覚相談 12/16
4. 近畿学校保健学会性教育実践の指導者講習会  
12/20、12/21
5. ワンポイント相談 12/25
6. 京都市歯科医師会「平成21年 新年互礼会」  
1/7
7. 精神衛生研究会 1/8
8. 第8回常任理事会 1/10 5:00 pm～  
「ふく正」

## 京都府医師会指定学校医制度 単位取得講習会のお知らせ

平成20年度学校医講習会 (主催：日本医師会 後援：日本学校保健会)

趣旨：地域医療の一環としての学校医活動を円滑に行うために必要な事項を修得する

開催日 平成21年2月21日(土)

会場 日本医師会館(東京都文京区本駒込2-28-16 TEL 03-3946-2121)

申込方法 都道府県医師会を通じて申し込んで下さい。参加者には、受講票を本人宛に直接お送りします。

申込締切 平成21年1月16日(金) 参加費 無料 参加人数 300人